

シラウオの生態に驚き

小川原湖環境学習で東北町・上北小が観察会

血流、内臓 自分の目で

顕微鏡をいっつぶさずに

東北町立上北小学校（向後秀樹校長）の五年生が十二日、同校で「シラウオ観察会」を開き、地元の小川原湖に生息するシラウオの生態について学んだ。

講師の「今度は卵も見せたい」
蛭名さん



シラウオを顕微鏡でのぞく上北小学校の児童

五年生六十八人は本年度、小川原湖の環境について学習しており、これまでにシジミの競りを見学した。今回は、活シラウオ研究会の会長を務め、町内で居酒屋を営む蛭名正直さんを講師に招いた。

シラウオは通常、水揚げするとすぐに死んでしまいが、蛭名さんは約十年前に生きたままシラウオを飼育する独自の技術を確立した。

観察用に約五十四を提供した蛭名さんは「生きたシラウオを見ることが出来るのは茨城と島根の水族館だけ」と話し、シラウオの生態を説明した。

ウオに苦勞しながらも、顕微鏡で骨の構造や血液の流れなどをじっくり観察し、エラや内臓の動きに驚きの声を上げていた。

大坂将君は「水槽の中では目玉しか見えなかったのに、顕微鏡では鋭い牙があってびっくりした」と興奮していた。

蛭名さんは「きょうの感動を忘れずに、小川原湖の環境保全について考えてほしい。もう少ししたらシラウオの卵を見せてあげたい」と語っていた。

23日の小学生バド

教室参加者を募集

八戸市協会

締め切り21日

八戸市バドミントン協

会は、二十三日に同市東

児童たちは、動くシラ